


# isionary Decision

【ヴィジョナリーディシジョン】

# 9

特集

## 地域交流に見る 企業活動の 意義



p.5  
地域貢献を通じた交流で  
地域の活性化を促す。

p.7  
イノベーションのためのリーダーシップ講座  
イノベーションへの道はグロースマインドから

p.9  
ビジネスを彩る名作のフレーズ  
適材適所の人事異動  
change in personnel

p.10  
幕末維新の肖像 この人物は誰？  
自由民権運動で活躍した元土佐藩士

いちばん、  
人を考える会社になる。

第一生命

p.3  
社会とつながる施設が、  
地域ケアの拠点へ。



p.1  
創業の地にこだわり続ける  
世界2位のグローバル企業。





スパット北上のほか、木材加工、鋼材加工、塗装、安全点検の4業者が協力してリサイクルを実現。園内で人気の遊具に。

# 地域貢献を 通じた交流で 地域の 活性化を促す。

今や企業にとって地域貢献の取り組みは重要度を増している。その一方で経営に余裕がないと消極的な企業も少なくない。岩手県北上市で解体工事や産業廃棄物処理などを手掛ける株式会社スパット北上は、自社業務の技術やノウハウを活かした地域貢献への取り組みに積極的だ。働く社員のモチベーションにも好影響をもたらす地域貢献の好例を取り上げる。

## 【株式会社スパット北上】

<http://www.spat-k.com/>

### 無償のリサイクルが 子どもたちの笑顔を生んだ

代表取締役千葉智英氏は、生まれも育ちも岩手県北上市。建設を学びに東京の短大へ入学するも、卒業後は地元北上市の建設会社に入社する。その後、グループ企業だった解体工事・産業廃棄物処理会社を任せられることとなり、2005年8月代表取締役に就任。同時に社名を現在の「スパット北上」に変更。現在は独立採算の経営を行っている。

して同社がかねてより、花壇の整備や冬期間の除雪作業などのボランティアを行っていた北上市の保育園に設置を提案した。新品であれば100万円単位の費用がかかる大型の遊具、願ってもない提案に園長も快諾した。さっそく同社と付き合いのある鉄鋼、木工、塗装業者らに協力を呼びかけリサイクルに着手する。各社とも業務の合間をぬって作業することで、部品の交換などにかかる材料費以外はすべて無償で協力してくれた。安全基準を満たすまで整備を施し、約2カ月の後、検査済みの遊具を寄贈。登り棒や滑り台なども付属したS.L型の遊具に、子どもたちは大喜びだった。



子どもたちからのお礼の気持ちが詰まった保育園からの感謝状。



同社の稼働車にはAEDが搭載されている。社員は全員AED取り扱いの資格を持つ。

業務上、様々な不用品を取り扱う同社に2009年、老朽化した屋外遊具の廃棄依頼が舞い込む。引き取った遊具は、部分的に傷みや錆などはあったが、整備すればまだ使えるようになった。そこで、廃棄依頼先の許可をとった上でリサイクルを検討することにした。その

「元気に遊んでいる子どもたちの姿を見た時は本当にうれしかった。社員たちにとっても、自分たちの仕事がいかに人々を喜ばせることができるのだと、

自信を得るきっかけになった」と同氏はその成果を実感する。

### 業務のついでにをを活かし 積極的に地域貢献を実行

北上市で運営する企業として、地域のために何ができるのかを模索してきた同氏は、ある日を境に「自分たちにはできることから始めよう」と考えるようになった。雪の多い土地柄、除雪業務も行う同社が、商業施設の除雪を請け負った時のこと。並びの民家で一生懸命雪かきをしている高齢者の姿が目に入る。それならと除雪車で雪を取り除いてあげたところ、大変喜ばれたという。以来、役員も含めたすべての社員に5分で構わないから、ついでにできる仕事を見つけて実行しようと呼びかけた。たとえば、業務が早く終われば、現場あるいは会社周辺の掃

除をする。また、解体工事の現場では、作業終了後に近隣の民家をまわり、「ご迷惑おかけしました」などと挨拶し、その際トラックの荷台に空きスペースがあれば、「廃棄するものがあれば、いっしょに運んでいきますよ」といった声かけをしている。「はじめたころは余計な手間と感じる社員もいましたが、繰り返すうちに近隣から感謝の言葉をかけられるようになり、その喜びを強く感じたのでしよう。今では社員の方が地域貢献活動に積極的です」

「これは緊急時に役立つと強く感じた。そこでAEDを3台購入し、救命の機会が少しでも増えればと、稼働する自社の車に搭載することにした。仕事現場だけでなく、市街地での使用も想定し、搭載車は営業日には毎日運行。休日には個人や団体に貸し出しも行ってという。」

「地域貢献は、積極的に行動することで多くの交流が生まれ、人と人がつながれば新たな活動の機会が生まれ、それが地域の活性化を呼ぶとと考えています」

現在、東日本大震災の企業・個人への支援活動も行なっている。廃棄物処理業務のなかでまた使える事務用品などを、自治体や有志の被災地支援サイトを通じて無償で譲渡している。

できることから取り組んだ同社の活動は、中小企業の地域貢献の可能性を見出している。



「現在、岩手県沿岸部に被災者の雇用を創出できる施設を構想しています」と語る千葉代表取締役。

たたとえば、業務が早く終われば、現場あるいは会社周辺の掃

はさらに広がりを見せる。街中で休憩中の施設内にAED(自動体外式除細動器)が設置してあるのを見つけた同氏

は、これでは緊急時に役立つと強く感じた。そこでAEDを3台購入し、救命の機会が少しでも増えればと、稼働する自社の車に搭載することにした。仕事現場だけでなく、市街地での使用も想定し、搭載車は営業日には毎日運行。休日には個人や団体に貸し出しも行ってという。」